

# 大阪大学図書館報

Vol. 17, No. 1 April 1983

## 目次

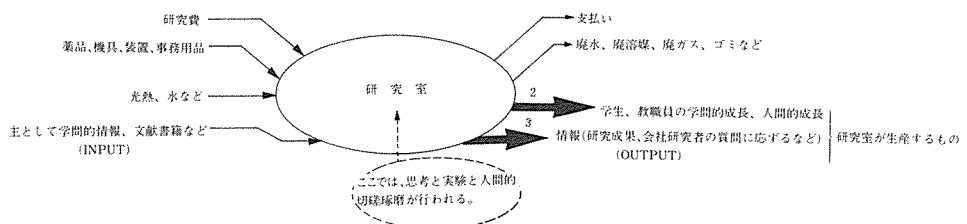
- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| ○図書館のクオリティー               | ○昭和58年度館内オリエンテーションの<br>お知らせ |
| ○電算化新システムによる図書管理<br>業務の概要 | ○会 議                        |
| ○教官著作寄贈図書                 | ○日 程                        |
| ○図書館業務電算化日録(2)            | ○館内の動き                      |
|                           | ○人 事                        |

## 図書館のクオリティー

三 川 禮

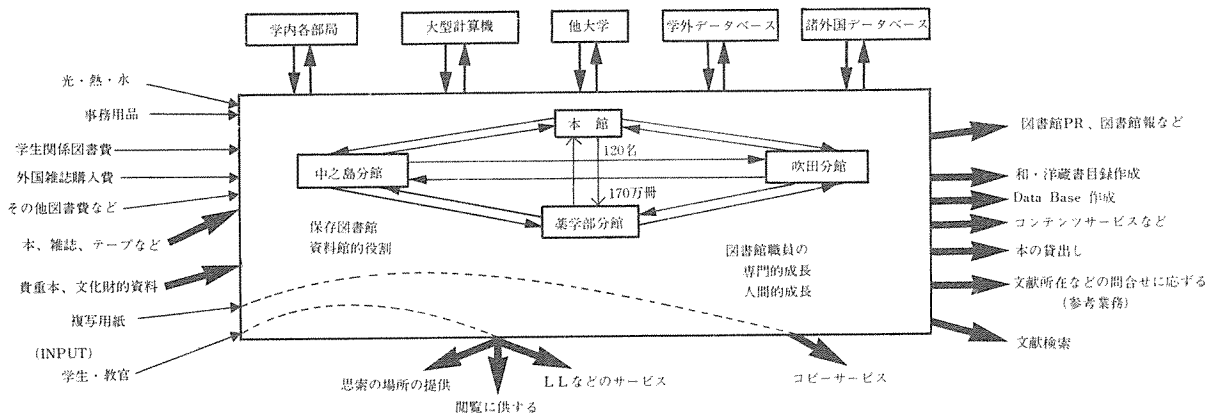
このたび、はからずも附属図書館長を拝命いたしましたのでご挨拶申し上げます。大阪大学附属図書館は、全国から注目されている立派な図書館でございます。私の任期は85年3月末まで2年4ヶ月ありますが、この図書館を多少ともよい図書館にしてゆくことに微力を盡したいと思っております。図書館のクオリティーをなお多少とも高めてゆきたいということでございます。図書館のクオリティーとは何であろうか—そのクオリティーが高いとはどういうことなのか—これを勉強することから始めたいと思っております。

私は日頃、研究室(講座)のクオリティーとは何であろうか、クオリティーの高い研究室とはどのような研究室だろうかを考えておりますが、それは非常に複雑多岐にわたっており、常に迷っております。しかし簡単に申せば、最も重要なことは、クオリティー1.安全な研究室であること、2.その研究室に居る者全員が、学生を含めて、学問的に又特に人間的に成長するような研究室であること、及び3.研究成果があがっている研究室であること—ではないでしょうか。重要さの順も1, 2, 3のように思います。研究は、単に研究成果をあげるためというより矢張り人のためにあるのではないかと考えると、この順序になるように思われます。研究室を一つのシステムと考えると簡単には次の図のようになります。



このシステムが作り出すものは、2、3という事になるわけで、OUT PUT (研究室が生み出すもの)のクオリティーだけを考えれば、2、3を考えればよいわけです。しかし、研究室の管理という立場からは研究室そのもののクオリティーも色々と考える必要があり、そのクオリティーコントロールを考えることになるわけです。

さて、「よい図書館」と言うとは何となく言葉の意味は分りますが、何がよいのかを考えてみると非常に複雑なことに気がきます。私はまだ図書館のクオリティーとは何ぞやがよく分っておりません。研究室の場合と同じように考えれば、簡単にはクオリティー1.は安全、2.は図書館職員がその図書館に居て専門的にも人間的にも成長するような図書館、3.は図書館の生産物(本を貸出したり、文献所在を教えてあげたり、文献をとりよせてあげたり、思索の場を提供したり……)がよいという事になりましょう。実験室ならクオリティー1.として最初に安全を考えるのは当然ですが図書館でもそれを第1位にもって来るべきだと思います。吹田分館で以前床下ガス配管が音が出る程のガス洩れがあった事や、図書館というところは、またと得られない貴重な蔵書などを取めていることを思うと、火災を始めとして安全の徹底的な分析と対策を、又常にそれを分析予測しようとする姿勢を持っていることは、質のよい図書館ということになりましょう。クオリティー1.の内容も分析すればする程多くの項目を含むことになりましょう。サービスの向上として開館時間が延ばされましたが、夜路を帰る職員・学生(特に女子)の安全の事まで図書館として考えるのは考え過ぎでしょうか。クオリティー2.一図書館をその職員の専門的成長は勿論、しかしむしろ人間的成長の場であるとする立場から見たクオリティー—これには随分多岐に亘る要素があると思われます。とにかく、このために何を為すべきかの分析と実行を日頃行うことは、クオリティー2.を高めるのに必要なことであります。研究室は教育の場でもありますから、このことは、研究室の目的の一つでもあります。図書館の場合、このこと自体目的ではありませんが、私は非常に重要なことと思っております。次図に簡単に示したように、図書館の多くのOUT PUTを一括



してそのクオリティーをクオリティー3.といたします。これらのOUT PUTは、図書館の目的であります、非常に複雑多岐に亘っております。例えば、文献所在の問合せに應ずること一つとりあげても、そのクオリティーを決める要素は、そのサービスが内容的に質が高いこと、早く、安く、応対が親切であることなど、多くの要素に分析されます。検索可能な知識が情報であります。したがって、目録の作製、Data Baseの作成などは情報作成に関することですが、このクオリティーも多くの要素に分析されられると思われます。殆ど図書のみを扱

ってきた図書館は、電算機による目録所在情報、Data Base の作成検索など——広い意味でのOAの導入により、その性格を急速に変えつつあります。常に進歩に遅れないこと—Renewalが利いていること—これも図書館の大きなクオリティーの1つであります。

分り切ったことを長々と書いておりますが、紙面も盡きて来たようです。一つ一つのケースを考えながら筆を進めると際限ないので、ここらでそろそろ筆をおかせていただこうと思いますが、私が申し上げたいことは、図書館を系統的に眺め、図書館のクオリティー・コントロールの考えを意識的に適用してみたら、一人一人がその努力を試みてみるだけでも何か気付くことが出て来はしないか、ということと、それからもう一つは、御批判もありませんが、成果よりもまず人を重視したいという私の気持ちを述べさせていただいたわけでございます。

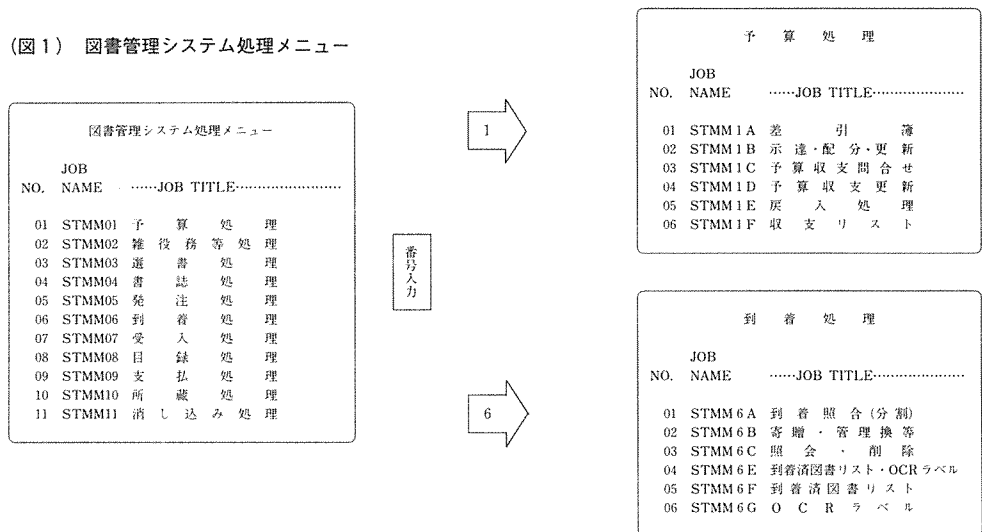
(附属図書館長)

## 電算化新システムによる図書館管理業務の概要

現在稼動中又は開発中の図書館管理システムの業務内容は、次のとおりである。

- 1) 予算処理 2) 雑役務等処理 3) 選書処理 4) 書誌処理 5) 発注処理 6) 到着処理 7) 受入処理 8) 目録処理 9) 支払処理 10) 所蔵処理 (図1参照)

(図1) 図書館管理システム処理メニュー



このうち本年1月より稼動している業務は、1)、6)、7)、9)の4つのシステムである。2)については昭和58年度より、3)については昭和59年度をメドに、4)、5)、8)、10)については本年5月よりシステム設計を開始し、昭和58年度中に稼動することを目標にそれぞれ開発中である。

今回は現在稼動中又は昭和58年度(4月以降)より稼動するシステムを中心にその概要を述べることにする。

### 1) 予算処理システム

本システムは、図書館の運営費、事業費、図書購入費等、図書館予算全体を全学的、一元的に管理することを基本方針として開発したシステムである。業務の内容は①予算の示達、

配分、更新の処理②各部局別、予算コード別の予算収支リストおよび同差引簿の作成③オンライン画面上での予算コード(講座等)単位の予算執行状況の問合せなどである。

6) 到着処理システム(ローカル処理)

本システムは、納品された図書の到着チェックからOCRラベル打出しまでの業務である。発注システムが開発された段階では、この時点で発注システムで作成された発注データの取り込みを行い、到着段階での追加、修正により、支払に必要なデータを作成する計画である。

7) 受入処理システム(ローカル処理)

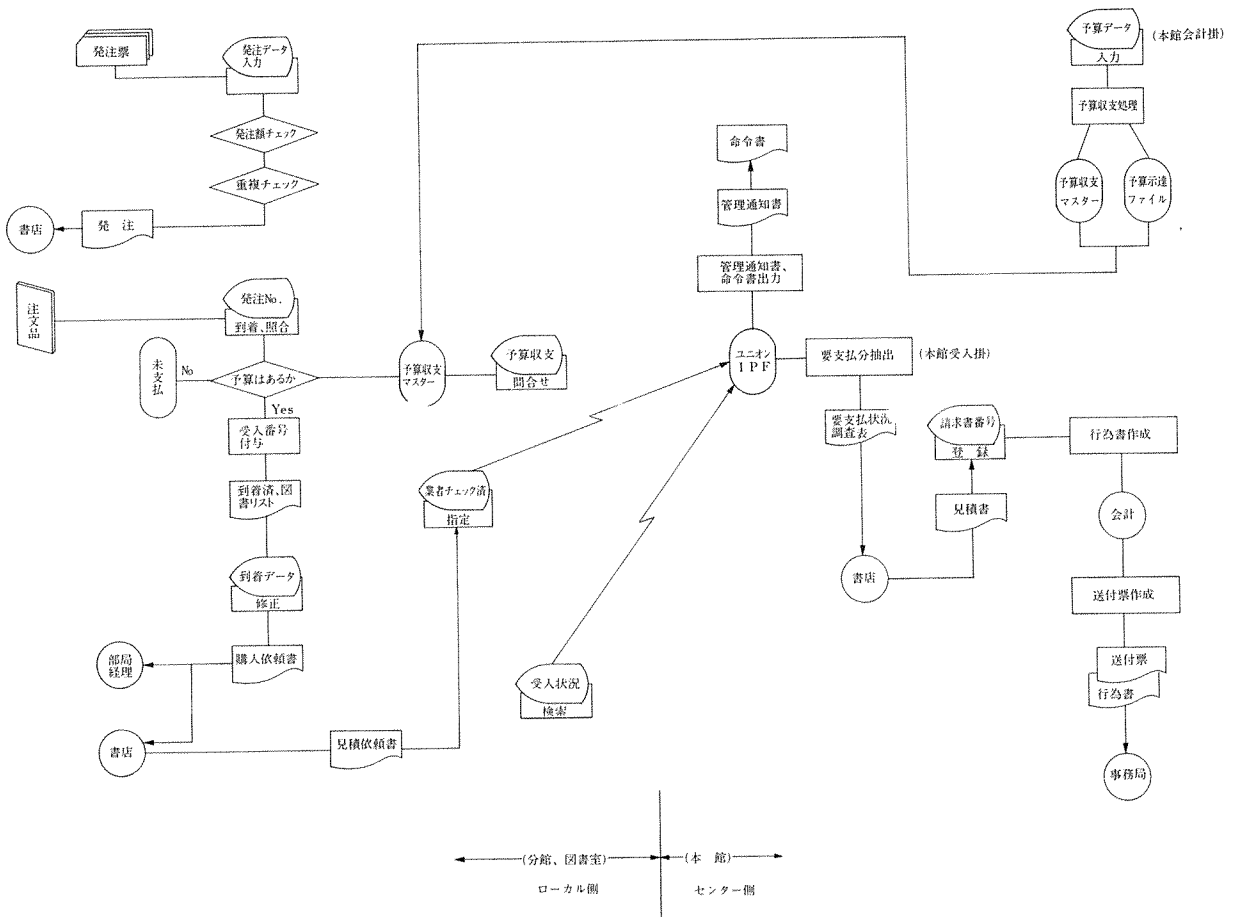
本システムは、到着処理システムで入力した到着データの追加・修正を行い、支払に必要な見積依頼書を打出し、業者がチェックした後、クリーンな支払データを作成する業務である。

9) 支払処理システム(センター処理)

本システムは、各分館、分室等で作成した見積依頼書のデータをブロック(同一業者)ごとに合成し、本館受入掛(センター処理)で一筆化し、各ローカルの業務を迅速化、省力化しようとする処理である。

以上の概略フローを表わしたのが図2である。

(図2) 図書の発注、受入、支払業務フロー概略図



今回の到着、受入、支払、予算管理の各システムの特徴を掲げると次のとおりである。

- ①従来のシステムは、本館関係のみの電算化であったが、新システムは、これを全学的な分館、分室を含むネット・ワークに拡大し、支払処理の集中化、一本化を図り、業務の迅速化、省力化を図った。
- ②従来から行っていた図書の予算執行だけでなく、一般物品の予算執行も合わせた全図書館予算の一元的管理を電算化し、予算の適正かつ迅速な執行を行うことをめざした。

今後の開発予定

図書管理システムの中心課題は、各種外部データベース(JP-MARC、日販MARC、LC-MARC等)の導入によるオンライン目録の作成、書誌データベースの形成、所蔵データベースの形成である。本年5月以後これらのシステム設計に入り、昭和58年度の早い時期に稼働させ、図書整理業務の迅速化、阪大および地域総合目録データベースの構築をめざす予定である。

これらの開発と合わせて、発注管理システム、選書システム等の開発を図り、発注図書の重複調査、発注額の把握、研究者に必要な選書情報の提供等のサービスを考えている。

=====**教官著作寄贈図書**=====

——本 館——

原田敏丸(経・教授)  
近世村落の経済と社会 原田敏丸著  
(山川出版 昭58)

斎藤謹造(教・教授)  
比較経済発表論 斎藤謹造著  
(東洋経済新報社 昭58)

東野治之(教・助教授)  
日本古代木簡の研究 東野治之著  
(塙書房 昭58)

——吹田分館——

小松定夫(工・教授)  
構造解析学Ⅱ 小松定夫著  
(丸善 昭57)

毛利正光(工・教授)  
古代地中海の旅 野外歴史地理学研究会  
編 毛利正光[他]著  
(ナカニシヤ出版 昭57)

鈴木達朗(工・教授)  
応用光学Ⅰ 鈴木達朗著  
(朝倉書店 昭57)

——産業科学研究所分室——

中村勝吾(産・教授)  
表面の物理(薄膜・表面シリーズ2) 中  
村勝吾著 (共立出版 昭57)

**業務機械化準備日録(2)**

昭和57年8月～昭和58年1月

日 時	主 な 事 項	日 時	主 な 事 項
57. 8.24	SE週間スケジュール提示 雑誌WG・SE打合せ会 図書WG・SE打合せ会	57. 9. 2	図書WG・SE打合せ会
8.25	運用WG・SE打合せ会(第8回)	9. 3	SEと打合せ会(第2回、週次)
8.27	SEと打合せ会(第1回、週次)	9. 6	大阪大学学術情報問題懇談会(第3回)
8.30	雑誌WG・SE打合せ会 図書WG・SE打合せ会	9. 9	日本電気との月次報告会—幹事班会合(第7回)
8.31	図書WG・SE打合せ会	9.13	運用WG会合(第8回)
		9.14	民族学博物館との関係についての打合せ会 運用WG会合(第9回)

日 時	主 な 事 項	日 時	主 な 事 項
57. 9.16	図書WG会合	57.10.19	建築工事入札
9.17	SEと打合せ会(第3回、週次)	10.21	幹事班会合(第12回)
	雑誌WG・SE打合せ会	10.22	SEと打合せ会(第7回、週次)
	Mürax導入に関する打合せ会		日本電気との合同三業務打合せ会
	日本電気システム搬入スケジュール表提出		電気工事入札
9.21	業務電算化システムに関する説明、検討会 (近畿地区関連国立大学附属図書館への説明)	10.25	機械(空調)工事入札
	文部省学術雑誌総目録電子計算機可読ファイル利用申請書提出	10.27	日本電気との月次報告会
9.22	幹事班会合(第8回) — SEと打合せ会(第4回、週次)	~10.28	図書ラベル(本館運用管理業務用:昭和47~56年度受入マスターより73,561件)出力 本館整理課模様替え(工事準備)
9.24	図書WG会合	11. 1	本館、理学部分室、基礎工学部分室開架図書ラベル貼付作業(職員約20名、学生アルバイト約50名)
	運用WG会合(第10回)	~11. 6	
9.25	図書WG・SE打合せ会	11. 4	中之島分館模様替え
9.27	雑誌WG会合	11. 5	文部省学総目阪大分データ受理
9.28	運用WG会合(第11回)		吹田分館模様替え
	分類・目録に関するアンケート調査依頼 (近畿地区関係国立大学)	11. 7	吹田分館工事
9.29	日販MARCサービス提案・説明会—日販(株) 図書館センター所長来館— 国立民族学博物館よりLC—MARCテープコピー受理—LC—MARC(1973~)、 LC—NAME, Authority(1978.4~)— 運用WG会合(第12回)	~11.10	
		11. 8	図書WG・SE打合せ会
9.30	UTLAS図書館自動化システム説明会—丸善MASISセンター— 日電システム150、端末4台、プリンター2台本館に導入、—移行対策、ソフト開発用—	11. 9	文科系資料室への機械化説明会
		11.10	運用WG会合(第15回)
10. 1	日本電気との月次報告会—幹事班会合(第9回)	11.12	幹事班会合(第13回)—SEと打合せ会(第8回、週次)
10. 4	日本電気システム構成表提出	11.15	大阪大学学術情報問題懇談会(第5回)
10. 5	図書WG・SE打合せ会	11.16	日販MARC導入についての打合せ会
10. 6	運用WG会合(第13回)	11.17	WG主査等の打合せ会—機械化PRについて 運用WG会合(第16回)
10. 7	吹田地区推進班会合(第1回)	11.20	本館配線・通信工事始まる
10. 8	雑誌WG会合	11.24	運用WG会合(第17回)
	SEと打合せ会(第5回、週次)	11.26	WG主査等の打合せ会—機械化PRについて
10.12	大阪大学学術情報問題懇談会(第4回)	11.29	運用WG会合(第18回)
	図書・雑誌WG合同打合せ会	11.30	運用WG会合(第19回)
10.13	運用WG会合(第14回)	12. 3	WG主査等の打合せ会—Müraxについて、検索システムの開発方針について—
	運用管理(1月稼働分)機能設計書(案)受理	12. 6	WG主査等打合せ会—機械化PRについて Mürax GT1000 設置
10.14	幹事班会合(第10回)		幹事班会合(第14回)—日本電気との月次報告会
	図書WG・SE打合せ会	12. 8	九州大学附属図書館研修出張(3名)
10.15	SEと打合せ会(第6回、週次)	~12. 9	
10.16	図書管理(1月稼働分)機能設計書(案)受理	12. 9	運用WG会合(第20回)
10.18	図書館委員会に「業務電算化実施計画案」報告		Mürax GT1000説明会(本・分館)
	雑誌管理(1月稼働分)機能設計書(案)受理	~12.10	
10.19	幹事班会合(第11回)	12.13	ホストシステムS-450設置(本館)
		12.13	運用管理業務オペレーション教育(第1回)
		~12.14	
		12.16	文学部助手に対する業務機械化説明会
		12.17	幹事班会合(第15回)—日本電気との報告会

日 時	主 な 事 項	日 時	主 な 事 項
57.12.17	図書館業務電算化に伴う端末の利用についての説明会—Mürax 導入部局についての説明会(参加者約30名)	58. 1. 7	幹事班会合(第16回)—日本電気との報告会 雑誌管理業務稼働(本館:雑誌受付業務)
12.20	Mürax オペレーション指導(村田データ機器)	1.10	図書管理業務稼働(本館:受入、支払、予算管理)
~12.24		1.11	日本電気幹部との打合せ会—開発計画、基本問題について
12.24	吹田地区推進班会合(第2回)	1.12	雑誌管理業務稼働(中図:雑誌受付業務)
12.25	雑誌管理オペレーション指導	1.14	運用WG会合(第21回)
12.27	運用管理業務オペレーション指導(第2回) Mürax についての打合せ会(村田データ機器)	1.19	運用WG会合(第22回)
12.28	図書管理業務オペレーション指導	1.19	WG 主査等の打合せ会—S-150のダウン対策等について
58. 1. 6	運用管理業務稼働(本館、理学部分室、基礎工学部分室)	1.21	雑誌管理業務稼働(吹田:雑誌受付業務)

## 〔関係資料〕

- 大阪大学附属図書館電子計算機機種選定の経緯について「大阪大学図書館報」Vol. 16, No. 3 (1982. 9) pp.4
- 大阪大学附属図書館における地域センターシステムの計画「大学図書館協力ニュース」Vol.3, No.3 (1982.9) pp. 1~2
- 附属図書館業務の機械化さらに進める「大阪大学新聞」第105号 (1982.10.20)
- 図書館の利用方法が変わります。—1月から電算化新システムスタート—「大阪大学図書館報」Vol.16, No.4 (1982.12) pp. 1~4
- 大阪大学における学術情報システムの改善整備について—大阪大学学術情報問題懇談会報告—「大阪大学図書館報」Vol.16 特別号 (1983.1) pp. 1~6

## 昭和58年度館内オリエンテーションのお知らせ

4月8日、入学宣誓式当日の図書館オリエンテーションの他に、実際に図書館を見て、図書館の機能と利用上の注意等を知ってもらう、新入生を対象にした館内オリエンテーションを下記の期間行います。

日 時 4月13日(水)~19日(火) 12時15分~13時00分

(但し、15日(金)、18日(月)のみ17時00分~18時00分にも行います。)

場 所 図書館 大会議室(旧館3階 西玄関階段を上がる) 定 員 約60名

図書館利用者票登録、図書・雑誌の貸出規則、利用予約、参考図書、複写等についての説明と併せて電算機室、LL室、書庫棟、参考図書閲覧室等の見学を行います。学生生活において、図書館を効率的に利用するために是非ご参加下さい。なお、文学部、法学部、経済学部の学部進学生を対象にした、レポート作成の際の資料収集等に関するオリエンテーションは6月下旬に行う予定ですので、館内掲示等にご注意下さい。



— 附属図書館吹田地区運営委員会 —

58. 2. 23 (水) 10:00~11:00 (吹田分館会議室)

報告事項 1.昭和57年度第1回外国雑誌検討小委員会について 2.昭和58年度基本参考図書費の要求について 3.業務電算化について 4.吹田分館の増築計画について報告があった。

協議事項 現分館長の任期満了（昭和58年3月31日）にともない、次期分館長候補者の選考を「規程」にもとづいて行った結果、工学部、産研より推薦のあった工学部金属材料工学科教授 山根壽己を選出した。

## ■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

58. 1. 26.  
27. 昭和57年度国立大学附属図書館事務部長会議 (神戸大学)
58. 2. 3. 昭和58年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会(第2回) (東京大学)
58. 2. 3. 国立大学図書館協議会常務理事会(昭和57年度策2回) (東京大学)
58. 2. 4. 第11回国公立大学図書館協力委員会 (国立国会図書館)
58. 2. 4. 国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会 (国立国会図書館)
58. 2. 23. CAS オンライン実演会 (本館)
58. 2. 23. 吹田地区運営委員会 (吹田分館)

## ■■■■■■■■■■ 館内の動き ■■■■■■■■■■

### 業務電算化実施委員会を拡大・強化

電算機更新にともなう図書館業務電算化システム開発のため、昭和57年1月に機械化準備委員会(12名)を設け、業務電算化計画書—第二次中間報告書を作成した後、詳細計画案の作成と電算業務稼動に備えて、同年6月に業務電算化実施委員会が発足した。昭和58年1月から業務の一部が稼動しているが、今後の開発計画を推進するため2月から幹事班に6名、雑誌管理WGに1名の委員を補充した。これで、実施委員会は幹事班(23名)と図書管理WG(12名)、雑誌管理WG(6名)、運用管理WG(8名)、吹田地区推進班(5名)、計37名で構成することになった。

### CAS オンライン実演会

化学情報協会の協力を得て、昭和58年2月23日にCAS オンライン実演会が附属図書館3階において行われた。研究者の関心の高さを反映して学内78人、学外21大学49人と多くの参加者があった。当日はCAS オンラインについての概況説明のあと、グラフィック端末による化学構造式などを使った検索の実演が行われた。参加者は具体的な課題を持ちよられており活気のある会となった。

## ■■■■■■■■■■ 人 事 ■■■■■■■■■■

58. 3. 1. 辞 職 中村 仁志 閲覧課参考掛事務補佐員
58. 3. 1. 辞 職 浅井 伸夫 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
58. 3. 1. 辞 職 松屋 清一 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員